

## 第6章

### 学生支援



## 1. 現状の説明

### (1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。

本学は、「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」を建学の理念として掲げ、1913年にこれを発展させた「早稲田大学教旨」を宣言している。この教旨をもとにして、この十数年間、「21世紀のグランドデザイン」「Waseda Next 125」を策定し、さまざまな改革を遂行してきている。この「Waseda Next 125」においては、2008年度からの10年間を目途とする大学の将来像を策定し、学生支援に関する方針も含め、2012年度までの具体的な方針を明確に定めている。

また、早稲田大学は2011年にはこれまでの「Waseda Next 125」の方向性を踏襲しつつ、新たに「Waseda Vision 150」を策定し、学生支援に関する方針を明確に定めている。

「Waseda Vision 150」の策定にあたっては、革新戦略実現のための基本方針として、学生支援ポリシーを定めて、具体的に、「学習、文化・スポーツの課外活動、ボランティア活動等を支援するとともに、学生一人ひとりの自立を促し、安心して学べる環境を整備する。学生が自発的な活力を最大限に発揮できるようなキャンパス環境を整えるとともに、学生に教育・研究を支援する仕事に就く機会を与え、経済的支援と社会的トレーニングの双方を提供し、学生が能動的に成長し、社会に巣立っていく環境を整える。

目標には達せずとも実績を残している全学基盤教育をより一層充実させるために、Teaching and Learning Center（教育・学習支援センター）の設置が検討され、全学基盤教育の運営体制、実習費の考え方、学部カリキュラムとの補完のあり方が検討されている。

学部学生のみならず、大学院生に対しても対応でき、特に専門職学位課程が実施可能な、Executive Educational Center（エグゼクティブ教育センター）の設置が検討されている。2学期制を基調としつつ、各学期をさらに前半・後半に分けて学科目を配当することにより、クォーター制に近い学期制を実現し、学生のサマースクールの参加を促進できる体制が検討されている。また、新入学生の秋学期入学についても導入の検討が始まろうとしている。また、成績評価のあり方や学生授業アンケートの教育改善への活用が検討されている。

学生の課外活動を支援するために、2010年度に課外活動等に関する規程を施行し、課外活動の支援を進め、学生生活のさらなる充実を図っている。2011年度においては、この規程に見直しを行い、公認サークルへの登録促進など、課外活動等の活性化を促進し、より一層の学生生活支援の充実を目指している。

2013年の完成を目指し800人規模の学生寮の建設が進められている。完成後には多数の留学生を受け入れ、早稲田大学の国際化を推進する。また日本人学生も居住し、留学生および日本人学生がともに日常的に異文化に触れあうことになり、国内にいながら海外にいるような国際感覚を養うなどの教育効果が期待できる。

## (2) 学生への修学支援は適切に行われているか。

早稲田大学では、修学をサポートする制度や体制を多数用意し、学生への修学支援を行っている。また、学問を修めるにあたっては、健全な学生生活を維持することが前提となる。このため学生生活の充実を図るために必要なさまざまな制度や体制を用意して、総合的な学生への修学支援を行っている。

### ◇オープン科目の設置

学部・学年にとらわれず、全学生が学ぶことができる「オープン科目」を約4000科目以上設置し、他学部、オープン教育センター、他大学、他機関から提供されている幅広い学問分野を履修することができる。

### ◇全学基盤教育の推進

本学では、すべての学生に身につけてほしい基礎学力である、英語コミュニケーション力、文章作成力、数学的思考力を「アカデミックリテラシー」と呼び、それぞれ講義を提供している。「Tutorial English」では原則学生4人に講師（基本的にネイティブスピーカー）1人のグループレッスンにより実践的な英語を身につける。ライティングセンターでは専門スタッフの個別指導により英文・和文両方に対して学術的文章の作成の能力の向上を図っている。また、「学術的文章の作成」科目を設置し、個別指導型の授業を行った。「1万人の数学」をモットーに「数学基礎プラス $\alpha \cdot \beta$ （金利編・最適化編）」を開設し、卒業後も役立つ数理的・論理的思考力の向上を図っている。

### ◇全学共通副専攻の設置

学部における専門分野とは別に、もう1つの分野を体系的に学習できるプログラムを「副専攻」と呼ぶ。「副専攻」では、コースごとに系統的に科目を履修し、幅広い豊かな教養と感性を身につけ、主専攻の応用や活用、また補強をすることができる。

### ◇学習指導の充実

2009年度から教務部・学生部主導のもと、出席状況や単位修得状況が芳しくない学生への指導の充実のために全学的な指導方針を整え、各学部において対象の学生・保証人への通知や学生との面談・指導に取り組んだ。

### ◇早稲田ポータルオフィスの設置

学事に関する学生へのワンストップサービスを目指し、全学生対象オープン科目の履修相談、学内あるいは自宅におけるパソコンの使い方などITに関する相談など、柔軟に各種相談に応じている。

### ◇こうはいナビ

新入生の学生生活を支援する学生と職員によるプロジェクトで、大学施設の案内や、授業・科目登録についての「科目登録相談会」などを実施している。

### ◇奨学金制度の充実

大隈奨学金、小野梓奨学金など学内に多数の給付奨学金制度を設け、学生生活を経済面で支援している。また留学生に対しても多数の奨学金制度を用意し経済的支援を行っている。

### ◇図書館の充実

蔵書数や閲覧スペースの充実はもちろん、カタログの電子化、検索機能、データベース

の充実化、RefWorks サービス（学術情報・研究成果の収集と管理、共有、情報発信を支援するウェブサービス）などの提供などを行っている。

#### ◇ゼミやサークルの研究成果発表の促進

ゼミ等の授業において修学の結果を発表する機会を設けることはもちろんであるが、サークル等の課外活動の発表の機会として早稲田祭（主催は学生）の開催に協力し、教室や学生会館施設の貸出を行い、発表の機会を提供している。また「U21 Undergraduate Research Conference」（大学生が自らの研究成果を発表する国際会議）などに参加する学生にも、大学として経済的援助をしている（資料⑥-12）。

#### ◇学生による授業評価

年に二度学生による授業評価を行い、その結果を学部・大学院等にフィードバックすることにより授業内容の充実に役立てている。また、補講やオフィスアワーの実施を徹底し、修学の機会をできるだけ設けている。

#### ◇教員向け FD セミナー

教員の認識・技術的向上を図るため、新任教員セミナー、新任教員フォローアップセミナー、情報交換会、Course N@vi 導入セミナーなどを実施している。

#### ◇IAO（インターナショナルアドミッションズオフィス）

ワンストップサービスの強化、留学フェア開催、留学資料室運営、受入・派遣留学生オリエンテーションなどを実施している。

#### ◇導入教育

入学後スムーズに早稲田大学の学生としての学生生活が送れるよう、入学前の学生に対して、オンデマンド講義「わせだライフ ABC」などの受講を促している。

#### ◇Course N@vi

オンデマンドによる授業運営を行う情報インフラを整備している。また、海外協定校と協力して行う遠隔教育プログラム（CCDL：Cross Cultural Distance Learning）についても実施している。

#### ◇24 時間使用可能コンピューター自習室

授業期間中 24 時間使用可能なコンピューター自習室を用意し、深夜まで学内ネットワーク環境を利用した修学が行えるよう対応している。また、学内において WiFi 環境を整備し、コンピューター自習室以外においても学内ネットワーク環境が利用できるよう対応している。

#### ◇学生生活調査

在学生 1 万人を対象にアンケート調査を行い、学生の意識について調査を行っている。その結果は学内外に公開され、各学部・大学院の政策決定に活用されている（資料⑥-7）。

#### ◇わせだ日本語サポート

日本語教育研究センターにて留学生の日本語学習支援を行っており、大学院日本語教育研究科の大学院生スタッフが、留学生の日本語学習をサポートしている。

#### ◇障がい学生支援の設置

障がい学生支援室を設置し、早稲田大学に在籍する身体障がい（聴覚障がい、視覚障がい、肢体不自由）を持つ学生を全学的に支援するために、各学部・研究科との連携のもとに学業上必要な支援サービスを提供している。また、教員や支援者にもさまざまなサービ

スを提供し、障がい理解のための啓発活動も行っている(資料⑥-11)。

### (3) 学生の生活支援は適切に行われているか。

#### ◇課外活動の支援

本学は、学生が個性豊かにして教養高く、国家および社会の形成者として有能な人材となるために、学術の研究、芸能の修練、スポーツ技能の向上、趣味の涵養などの課外活動を行うにあたってのさまざまな支援をしている。特に約 560 の公認サークルへの支援は、学生会館、教室、体育館、グラウンドなどの施設の利用や課外活動補助金の支給など充実している(資料⑥-8)。

#### ◇学生生活を支援する施設

学生生活をより充実させるための施設として、大隈記念講堂、小野記念講堂、学生会館、記念会堂、大隈庭園、トレーニングセンター(学生会館内)、リフレッシュスタジオ、高石記念プール、カフェテリアや食堂、5つのセミナーハウスなどを用意している。

#### ◇厚生制度の充実

大学で認められている教育研究活動中に万が一の事故が発生した場合に補償を行うため、学生保障制度を用意している。また、健康増進を目的とした学生健康増進互助会があり、申請により学生は医療給付を年間6万円まで受けることができる(資料⑥-13)。

#### ◇男女共同参画推進室の設置や保育所、託児室の設置

男女共同参画推進室では、すべての構成員について男女格差を是正し、大学運営の意思決定や教育・研究・学習の実践にて男女がバランスよく参画できるような環境の実現を目指し、活動している。その一環として、ワークライフバランス・サポートセンター、保育所共同運営、一時預かりの託児室を開設している。

#### ◇健康キャンパス構想

本学では正しい健康・医療情報を提供し、運動・食・医療・心のケアの総合的なアプローチを図ることで、学生自らが在学中から将来にわたるまで健康を維持し、ライフ・マネジメントできるようサポートしており、「健康創生論」や「メンタルヘルスマネジメント論」などのオープン科目の設置や「健康祭り」「体育祭・総長杯スポーツ大会」などを実施している。

#### ◇国際コミュニティセンターの設置

グローバルかつローカルに異文化を体験するための拠点となる場所を提供している。国籍や学部・大学院や学年の枠組みを超えてさまざまな学生がともに課外活動を行い、異文化理解を深める場となっている(資料⑥-14)。

#### ◇レジデンスセンターの設置

本学では2009年にレジデンスセンターを設置し、学生寮の整備・充実を図り、全人教育のためのプログラムを取り入れた寮生活のあり方を検討し、特に初年次教育の一環として学生が生活面から人間力を形成するための支援を行う。学生寮は日本人学生と外国人学生の混住寮とし、リテラシー教育、大学院生によるサポート、ランゲージ・エクステンション、

ボランティア活動、地域との交流、キャリア形成支援等を通じて、学生自らがコミュニケーション能力や社会的適応力を高めることを可能とする全人教育の場としている(資料⑥-15)。

#### ◇保健センターの設置

センターの保健管理室・診療室では学生・教職員の健康管理や診療を行っている。毎年、学生定期健康診断を行い、また保健管理室では日常的に健康相談を受けている。学生相談室では学生生活上のあらゆる相談が可能である。心理的、精神衛生的な相談は専門のカウンセラー、法律相談では弁護士が担当し、秘密厳守で相談を受けている(資料⑥-10)。

#### ◇ハラスメント防止室

本学では、「早稲田大学におけるハラスメント防止に関するガイドライン」を制定し、相談を受けつけ、その解決に取り組むだけでなく、パンフレットやホームページなどでの広報や、講演会等の催し物を通して、啓発・防止活動を実施している。

### (4) 学生の進路支援は適切に行われているか。

#### <進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施>

キャリアセンターでは、「生きること（働くこと）に対する問題意識・目的意識の醸成を図り、常に自らの判断で未来を切り拓き、主体的に人生を形成することができるように学生を支援する」を理念に掲げ、各種プログラムを設定している。そのため、一般的な就職支援とは別に「キャリア形成支援」プログラムを展開している（資料⑥-2）。

「キャリア形成支援」については、2002年に就職課からキャリアセンターに改組して以来、講義形式と実践形式の両方で実施してきた。

講義面では「キャリアサポートセミナー」（キャリアセンター設立当初の名称は「キャリアガイダンス」と銘打ち、低学年の学生を対象に、学生に生き方や働き方を考える契機を提供している。彼らに行動変容を起こし得る講師を招き、基調講演にディスカッションやグループワーク等を加えたセミナーとなっている。

また、本学ではキャリアセンター以外でも、「キャリア形成支援」プログラムを実施している。例えば、オープン教育センターが設置している「卒業準備プログラム」や「自分のプロジェクトを経営する」等の科目がある。

実践面では、本学公認のインターンシップの窓口として毎年、学生を各企業等に派遣している。公認プログラムのインターンシップ「WIN」は、行政コース、マスメディアコース、国際協力コース、ビジネスコースの4コースに分かれており、事前授業、事後のセミナーと報告会からなっている(資料⑥-4)。

さらに2010年度から、企業等で仕事をしている社員に同行し、その様子を見学する「ジョブシャドウイング」を導入した。これは、前述のインターンシップは荷が重いと考える学生に向けたプログラムである。学生の産業界に対する認識を広げるため、派遣先の企業には学生にあまり馴染みのないBtoB企業を選定しているのがこのプログラムの特徴である。キャリアセンターでは、これを低学年向けのプレインターンシップとして位置づけている。

## 第6章 学生支援—1. 現状の説明

「キャリア形成支援」の情報提供ツールとして、「キャリアガイドブック」を発行し、主に低学年の学生に配付している。また、学生の父母に対するキャリアセンターの支援内容の説明会でも同冊子を提供している(資料⑥-2)。

「就職支援」では、就職講座、業界研究講座等を年間50講座実施している。基本的な講座に加え、エントリーシートの書き方、面接、グループディスカッション対策等、日替わりでテーマを設定し、30分間のミニセミナーとして、就職活動期にはほぼ毎日実施している。さらに、外国人留学生を対象としたものを年間34講座行っている(資料⑥-6)。

また、エクステンションセンターでは、公務員対策、法学検定試験対策、TOEIC検定対策、就業力・就活力講座等を提供している。

一方、学内企業説明会にも注力している。学生に幅広い選択肢を持ってもらうため、有名企業だけでなく、学生にあまり知られていない実力派企業や地方優良企業をはじめ、公務員志望の学生のために行政機関も招聘している。企業説明会は、外国人留学生を対象としたものも別途開催している。

「就職支援」における情報提供ツールとしては、「就職活動ガイドブック」を刊行するほか、外国人留学生向けに日本語と英語併記の「外国人留学生のための就職活動ガイドブック」を発行している(資料⑥-1,資料⑥-5)。電子媒体では、キャリアセンターメールマガジンを希望者に定期的に配信している。加えて、外国人留学生用のメールマガジンは、日本語版と英語版を配信している。また、本学のポータルサイト(Waseda-net Portal)上に「企業・求人情報照会」を提供し、求人票、OB・OG名簿、インターンシップ情報の提供を行っている。さらに、先輩の就職活動の様子をまとめた「就職活動体験記」を公開している。

「キャリア形成支援」と「就職支援」に共通するものとして個別進路相談がある。これはキャリアセンター職員と外部からのキャリアコンサルタントがあたり、2011年度は延べ7885人の学生相談に対応した。また、ボランティア学生で構成する「学生キャリアアドバイザー」は、2011年度に延べ2310人の学生相談に対応した。

キャリアセンターで行われる講座やセミナーのほぼすべてを録画し、授業等で参加できなかった学生のために学内のポータルサイト Course N@vi で公開している。2011年5月現在、110件の講座が閲覧可能となっている。



## 2011年度実施ガイダンス、情報提供等一覧

## 【キャリア形成支援】

名 称	講座数	参加者数	内 容
キャリアサポートセミナー	8 講座	589	組織のビジネスマンや起業家等の講演を聞き、さまざまな人生のあり方を知る
ジョブシャドウイング	15 社	89	低学年用のプレインターンシップ
公務員・教員キックオフガイダンス	40 官公庁等	700	低学年用の公務員・教員の業務説明
霞が関特別講演会	6 講座	360	現役の行政官が来校し、担当した政策(仕事内容)についての講演
TWN フリーディスカッション	1 講座	67	女子学生対象の業界別OGとの懇談会とパネルディスカッション
自己分析ワーク	8 講座	976	講義とディスカッションにより自己理解を深める
インターンシップガイダンス	1 講座	150	インターンシップについての概要説明
インターンシップ履修のための講座	4 講座	782	マナーセミナー・リスクマネジメントセミナー・フォローアップセミナー等
公認プログラムインターンシップ(WIN) 実習	4 コース	87	事前・事後のカリキュラムが一体となり、単位修得を認めている。

## 【就職支援】

名 称	講座数	参加者数	内 容
就職ガイダンス	11 講座	2,673	就職活動の基礎編ガイダンス
就職講座、業界研究講座	50 講座	12,669	職種・業界・企業研究の方法等の解説
学内企業説明会	539 社	54,864	優良企業を学内に招いた企業説明会
就活ミニセミナー	116 回	2,007	活動時期に合わせた 30 分間の対策講座
I 種中央省庁セミナー	13 府省	200	官僚の講演・業務説明会(人事院主催)
集団模擬面接会	34 コマ	324	協力企業 7 社による模擬面接会
筆記試験模擬テスト	4 回	624	SPI 模擬テストと一般常識模擬テスト
外国人留学生向け就職講座等	34 回	1,868	留学生向け就職セミナー、講座等
グループディスカッション対策講座	5 講座	252	グループディスカッション対策のための講義
その他の就職支援講座	7 講座	1,687	連続面接特訓講座・コミュニケーション能力養成講座、学生アドバイザーイベント
学生個別相談	—	7,885	キャリアセンター専任職員、CDA(キャリア・ディベロップメント・アドバイザー)による個別相談

## 第6章 学生支援—1. 現状の説明

### 【情報提供】

名 称	部数等	内 容
キャリアガイドブック	15,500 冊	早稲田大学のキャリア支援の全貌を網羅した冊子
就職活動ガイドブック(就活生向)	16,000 冊	就職活動時に必要な知識を網羅し、前年の就職活動のデータも掲載した冊子
インターンシップの手引き	4,500 冊	公認プログラム WIN を中心にインターンシップについて案内した冊子
外国人留学生のための就職活動ガイドブック	2,000 冊	就職活動ガイドブックの外国人留学生版（日本語・英語の併記）
メールマガジン(WEB)	44 回	登録者に就職関連情報配信。留学生対象を含む。
就職活動体験記 (WEB+製本)	1 冊 (配架用)	先輩の体験記をまとめ、製本した冊子とその Web 版
企業・求人情報 (WEB)	8,397 件	求人情報、OB 情報、インターンシップ募集等
講座、セミナーWEB 公開	110 講座	キャリア支援・就職支援の講座・セミナーを Course N@vi で公開
キャリア関連図書	437 冊	キャリア・就職関連の図書を閲覧・貸出

### <キャリア支援に関する組織体制の整備>

キャリア支援は、キャリアセンターと学内他箇所（各学部・大学院、オープン教育センター、エクステンションセンター、ボランティアセンター、国際コミュニティセンター等）と連携を図りながら推進している。特に各学部や附属高校に対しては、オリエンテーションの際にキャリアセンター職員が出向き、キャリアガイダンスを行っている。

また、キャリアセンターとオープン教育センターとは、キャリア支援の大きな柱であるインターンシップで連携し、インターンシップ委員会を組織している。委員会は各コース（行政、国際協力、マスメディア、ビジネス）の担当教員、オープン教育センター担当教員、キャリアセンター長で構成されており、大学全体のインターンシップにかかわる審議機関としての役割を担っている。

これ以外に、キャリアセンターは就職が決まった学生からボランティアを募り、「学生キャリアアドバイザー」を組織している。主な活動は、学生へのキャリア・就職活動のアドバイスだが、これ以外にも就職支援行事の企画・運営を行っている。この制度は 9 年目を迎え、現在 OB・OG 会も結成され、現役のアドバイザーと合同で就職支援のイベントを開催している。

## 2. 点検・評価

### (1) 効果が上がっている事項

#### <インターンシップおよびジョブシャドウイング>

キャリアセンターの理念（目的）は、「問題意識・目的意識の醸成を図り、常に自らの判断で未来を切り拓き、主体的に人生を形成できるよう学生を支援する」ことである。「WIN」と呼ばれる本学公認インターンシップと「ジョブシャドウイング」は、正にこれに適合するプログラムである。

「WIN」では、本人の希望を尊重してコース（行政、マスメディア、国際協力、ビジネス）を決定する。プログラム実施にあたり、事前授業、報告会、フォローアップセミナーがあり、この一連の流れからインターンシップの効果の拡大を狙っている。これ以外に、学生による自主的な勉強会「サブゼミ」が定期的開催されることもあり、キャリアセンターの掲げた理念に沿った活動となっている。

「ジョブシャドウイング」とは、学生が企業等で社員に密着し、朝から夕方までの1日を体感するプログラムで、プレインターンシップと位置づけられている。社会人として働くことや仕事のやりがいを感じとり、自分に不足しているものや働く意義・目的を見出すことが主な目的である。学生は事前に勉強会に参加し、派遣される企業の業務や派遣中の自分の役割を学ぶ。終了後は、参加学生同士で報告会を開き、将来のビジョンにどう影響したかを話し合い、最終的にレポートにまとめる。このプログラムは、実施期間や実施内容をみても取り組みやすいものになっているため、低学年の学生に適したプログラムといえる。

参加した学生から寄せられている感想は次のようなものがある。

「会議や商談で相手企業に価値を生み出すことを示し続けて、信頼関係、企業関係が築けているのだと実感した」「営業は無駄かもしれないことの積み重ね。しかし無駄になってしまうかもしれない行動の積み重ねが成果へつながる」「馴染みがなかったり、先入観のある業界に対しても自分の評価軸を持てた」「社会人にコミュニケーション能力が重視される理由がわかった。社会は企業が影響し合っているが、その企業のつながりは実際には企業間の人のつながりであることを強く感じた」「仕事は1人で成り立っているわけではない。日頃からの協力者づくりが重要」。

本プログラムは、「人材育成図る動き」として毎日新聞2010年10月18日の朝刊に掲載された。また、岩手大学が本取り組みを参考にし（同大学職員がジョブシャドウイングの事前勉強会・事後報告会に参加）、同大の正式なキャリア支援プログラムに取り入れた。さらに、同大主催の「キャリア教育フォーラム」（後援：岩手県、盛岡市、岩手県雇用促進産学官連携協議会、NPO法人未来図書館）に、ジョブシャドウイング経験者の本学法学部生がパネラーの1人として参加し、ディスカッションを行うなど、マスメディアや他大学からも注目されている。

### ＜学業と就職活動の両立＞

現在、就職活動は3年生の後半から始まる。キャリアセンターは、学生に対し就職活動を乗り越えるために多くの情報を与えなければならないが、同時に学業に支障をきたさないよう配慮しなければならない。

そのため、企業を学内に呼んで行う説明会は休日を利用し、授業に支障がないように実施している。また、キャリア形成支援講座や就職支援講座は、ほぼそのすべてを録画し、学内ポータルサイトの Course N@vi で公開している。これによって、授業に参加できなかった学生は、いつでもどこでも映像を観ることができるようになり、講座を気にすることなく授業に集中することができる。

## （2）改善すべき事項

留学生 8000 人計画を目標にグローバル化推進を進めていたが、現時点では 4000 人程度にとどまっている。今後は 8000 人の受け入れを目指し、世界規模の大学となるよう努力が必要である。

既存の予算内で実行可能なものについては、関連事業の整合性を踏まえ実行する必要がある。また、外部資金でも実行可能なものについては、関連事業の整合性を踏まえ実行する必要がある。

特に全学基盤教育の推進については、新入生全員への対応を目標としているが、ライティングセンターにおける個別指導や「学術的文章の作成」科目はそれぞれ 2010 年度実績で 2030 人、2418 人と目標を大きく下回っている。また「1 万人の数学」を目指している「数学基礎プラス  $\alpha \cdot \beta$ （金利編・最適化編）」においても、2010 年度実績で 3552 人と、目標に到達していない。

早稲田大学においては、上述のようにさまざまな修学支援を行っているが、これらの取り組みが必ずしも学生全般に浸透していない。

保健センターの実施している学生定期健康診断においては、受診の義務が法令で定められているが、受診率は 2010 年度 60.2% とまだ低い。今後の大学の検討課題となっている。

### ＜主体的に人生を形成できる学生の育成＞

「効果が上がっている事項」で取り上げた「インターンシップ」と「ジョブシャドウイング」では、キャリアセンターの理念の「問題意識・目的意識の醸成を図り、常に自らの判断で未来を切り拓き、主体的に人生を形成」の前半「問題意識・目的意識の醸成を図り」は達成されている。しかし、理念の後半の「常に自らの判断で未来を切り拓き、主体的に人生を形成」の達成は不十分だと考えられる。理由は、「キャリアサポートセミナー」の参加学年は低学年を想定して行われるが、参加者は就職活動を意識し始めた 3 年生以上が多くを占めるためである。

キャリアセンターはキャリアサポートセミナーで、学生にできるだけ早い段階から、大学生活に主体的に取り組むことを伝えていきたいと考えている。もちろん学生は、大学で

の学業と課外活動に関心が向き、その過程で自然に主体性を身につけ、自らを成長させることができる。多くの学生は、そのように自分を成長させている。しかし一方で、自らの力でそれが見つけられない学生もいる。そのような学生に少しでも早く「キャリア形成支援」に関心を持ってもらい、主体的に自己を成長させるための行動を起こしてもらうことが必要であると考えます。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### (1) 効果が上がっている事項

早稲田大学は2011年にはこれまでの「Waseda Next 125」の方向性を踏襲しつつ、新たに「Waseda Vision 150」を策定し、学生支援に関する方針を明確に定めている。

「Waseda Vision 150」の策定にあたっては、革新戦略実現のための基本方針として、学生支援ポリシーを定めて、具体的に、学習、文化・スポーツの課外活動、ボランティア活動等を支援するとともに、学生一人ひとりの自立を促し、安心して学べる環境を整備する。学生が自発的な活力を最大限に発揮できるようなキャンパス環境を整えるとともに、学生に教育・研究を支援する仕事に就く機会を与え、経済的支援と社会的トレーニングの双方を提供し、学生が能動的に成長し、社会に巣立っていく環境を整える。

目標には達せずとも実績を残している全学基盤教育をより一層充実させるために、Teaching and Learning Center（教育・学習支援センター）の設置が検討され、全学基盤教育の運営体制、実習費の考え方、学部カリキュラムとの補完のあり方が検討されている。

学部学生のみならず、大学院生に対しても対応でき、特に専門職学位課程が実施可能な、Executive Educational Center（エグゼクティブ教育センター）の設置が検討されている。2学期制を基調としつつ、各学期をさらに前半・後半に分けて学科目を配当することにより、クォーター制に近い学期制を実現し、学生のサマースクールの参加を促進できる体制が検討されている。また、新入学生の秋学期入学についても導入の検討が始まろうとしている。また、成績評価のあり方や学生授業アンケートの教育改善への活用が検討されている。

学生の課外活動を支援するために、2010年度に課外活動等に関する規程を施行し、課外活動の支援を進め、学生生活のさらなる充実を図っている。2011年度においては、この規程に見直しを行い、公認サークルへの登録促進など、課外活動等の活性化を促進し、より一層の学生生活支援の充実を目指している。

2013年の完成を目指し800人規模の学生寮の建設が進められている。完成後には多数の留学生を受け入れ、早稲田大学の国際化を推進する。また日本人学生も居住し、留学生および日本人学生がともに日常的に異文化に触れあうことになり、国内にいながら海外にいるような国際感覚を養うなどの教育効果が期待できる。

#### <インターンシップおよびジョブシャドウイング>

現在、インターンシップは、学生の問題意識、目的意識の醸成を図るうえで効果を発揮している。今後も基本的にはこれを踏襲したいと考えている。将来に向けての方策としては、インターンシップのさらなる充実である。具体的には、特に低学年の学生向けのものを増やすことを考えている。

企業はインターンシップの学生を受け入れる際、なるべく就職活動対象学年の3年生を受け入れたいと考えている。本来であれば低学年からインターンシップを経験し、仕事や企業について理解させたいが、低学年の学生はその機会が与えられないのである。そのため将来に向けて、低学年の学生を受け入れてくれる企業を開拓し、より早い段階からイン

ターンシップを経験させたい。

ジョブシャドウイングはプレインターンシップと位置づけられていることもあり、低学年の学生が中心となっている。このプログラムは2010年度から開始したこともあり、まだ2回実施したのみである。まずは暫くこの体制で運用し、参加学生や受入企業の声を集めて情報を集める必要がある。同時に、①受入学生数を増やす、②業界、業種、職種を多様化させる、③参加学生が複数の企業を経験できるようにする、などプログラムの充実を図り、学内に浸透させていきたい。

### ＜学業と就職活動の両立＞

企業の採用活動開始時期は、2011年度からこれまでの10月から12月に変更されたことにより、多少学業への影響が少なくなった。しかし、教育現場からは3年生からの採用活動は「教育の空洞化」が生じるとし、4年生の夏以降の採用活動を望んでいる。大学本学はこれについて、引き続き機会あるごとに採用活動を遅らせるよう関係機関に要望していきたい。

これが抜本的に解決されるまでは、キャリアセンターは学生に学業と就職活動の両立ができるよう対策を続けなければならない。具体的には、①学内企業説明会の休日開催、②キャリア形成支援講座や就職支援講座をポータルサイトの Course N@vi で公開、この2点を引き続き行っていきたい。

このうち特に力を入れるのは、Course N@vi の充実である。キャリアセンターで行う講座やセミナーに参加できないのは、授業がある学生だけではなく、海外へ留学している学生もいる。また、外国人留学生で日本語がまだ十分ではない学生は、講座を一度聞いただけでは理解が難しい場合も考えられる。そこで、Course N@vi を充実させ、海外へ留学生している学生や外国人留学生のために活用していきたいと考えている。

## **（2）改善すべき事項**

「Waseda Vision 150」は本学の創立150周年を目指して策定されている大きな方策である。現在は各項目においてワーキンググループが立ち上がり、より実効性を伴う具体的な方針の検討段階である。変化の激しい社会情勢に合わせ、早急に適切な方針を打ち立てることが望まれる。

大学の国際化が進む今日、大学教育の質や制度も国際的なスタンダードを満たし、変化の激しい国際情勢を分析し次代のニーズを的確にとらえた魅力のある教育を提供していく必要がある。

寮などの建築物は完成した後にすぐに建物の改修を行うことはできない。国内の社会情勢の変化や世界情勢の変化に耐えうる、設備・制度両面における柔軟な寮のあり方が求められる。

＜主体的に人生を形成できる学生の育成＞

キャリアセンターの理念の後半部分に「常に自らの判断で未来を切り拓き、主体的に人生を形成することができるように学生を支援する」とあり、これについて早い段階から行動を起こせるように低学年の学生の支援に力を入れる必要がある。

それを導くのが「キャリア形成支援」であるが、そもそも低学年の学生はキャリア形成に関心がある者は少ない。そのため、低学年向けのキャリア支援冊子「キャリアガイドブック」に興味を示す学生は多くはない(資料⑥-2)。それを打開するため、学生が「なんだろう、面白そうだ」と思って手にするよう、2012年度に名称を「みらい設計ハンドブック」と変えた(資料⑥-3)。中身も大学生生活の説明を中心としたものから、先輩の体験を多く取り入れ、将来の自分と重ね合わせられるようにした。また、キャリア形成に役に立つ学内の資源として、オープン教育センター、ボランティアセンター、留学センター、国際コミュニティセンター、エクステンションセンター、インキュベーション推進室を紹介し、学生の多様なニーズに応えるように情報を提供した。今後も学生の反応をみて改善していきたい。

また、「キャリアサポートセミナー」への低学年の学生の参加が少ないのは、彼らの関心がキャリア形成に向いていないというのが理由である。したがって、彼らのニーズに合った内容にするか、新しい企画を考えることが必要となる。そこで、2012年7月に、キャリアセンター主催の低学年の学生を対象とした「夢中になることが見つかるセミナー」を新規に実施することが決まった。この企画は、ボランティアセンター、インターンシップ、国際コミュニティセンターを活用して、充実した学生生活を送っている先輩学生が低学年の学生に自分の体験を伝えるものである。目的なく学生生活を送っている学生がこのセミナーに参加し、何か夢中になるものを見つけ、充実した学生生活を送ることを期待している。

「主体的に人生を形成できる学生の育成」は、学部の授業やオープン教育センターが設置するキャリア関連科目をはじめ、留学センター、ボランティアセンター、国際コミュニティセンターなどの学生支援箇所の活動、さらには課外活動のサークル、ボランティア、地域活動などから身につくものだと考える。

今後、キャリアセンターまたは学生支援関連箇所が中心となり、学内外の資源を活用し、学生が主体的に自分の人生を形成できるキッカケを得られる企画を打ち出していきたい。



## 4. 根拠資料

- ⑥-1 就職活動ガイドブック 2012 (冊子)
- ⑥-2 キャリアガイドブック 2011年度 大学1-2年用 (冊子)
- ⑥-3 みらい設計ハンドブック (冊子)
- ⑥-4 インターンシップの手引き 2012 (冊子)
- ⑥-5 外国人留学生のための就職活動ガイドブック (冊子)
- ⑥-6 キャリアセンターイベント案内(pdf)
- ⑥-7 2011年度学生生活調査報告書  
<http://frompage.pluginfree.com/weblish/frompage/7619686038/index.shtml>
- ⑥-8 課外活動等に関する規程  
<http://www.waseda.jp/student/gakusei/kagaikitei.pdf>
- ⑥-10 保健センターホームページ  
<http://www.waseda.jp/kenkou/center/HSC/>
- ⑥-11 早稲田大学障がい学生支援室パンフレット (冊子)
- ⑥-12 2012年度公認サークル一覧について  
<http://www.waseda.jp/student/gakusei/12db.pdf>
- ⑥-13 早稲田大学学生健康増進互助会案内 2012 (冊子)
- ⑥-14 ICC (国際コミュニティセンター) パンフレット (冊子)
- ⑥-15 学生寮のご案内 2012 (冊子)

